

## 〈令和3年度・ゆとりあ まとめ〉

### はじめに

令和3年度、ゆとりあは定員20名に対し48名（昨年度45名）の契約者が在籍し、令和元年から約10名の利用者増となった。また一日当たりの利用者の平均は年間23.3人となり利用率も116.5%と大幅に向上した。特に昨年は一年のうち利用率が100%に満たない月が3か月あったが今年はコロナウイルスの影響等受けることなく年間を通し高い出勤率となっている。こうした状況は現場職員を中心にコロナウイルスの感染予防に日々努めながら、個々のニーズにきめ細かく適切な支援を行い、活動内容の充実及び、体制強化や環境整備が成果に結びついている。また、今年度は就労保障を軸に工賃向上を目指しお菓子の新商品開発や物資販売、花苗販売に力を入れ、念願の工房を開設するなど職員そして利用者も目標をもって関わることが出来たことは更に次年度につなげたい。

ただ、これまで就労保障と同等に充実を図った余暇支援については感染防止の観点から積極的に行うことが出来ず、多くの利用者が地域資源を利用し社会の中で楽しみや潤いを感じながら過ごすことには十分な対応ができなかったため今後の課題である。

主たる利用者については引き続き精神障害者を中心とした就労継続支援B型（定員20名）として運営を行った。利用者の多くは障害の特性により継続した施設利用が困難なケースも多く、また本人の心身の状態や家庭基盤に課題があり包括的な支援を必要とするなど、状況や個々のニーズの多様性により施設としての専門性の向上はもちろん医療を中心とした他機関との連携強化、目的や課題別による班編成等、体制を整え支援度の高いケースに対しても随時対応の強化を図った。必要に応じて臨機応変にモニタリングを行い、それぞれの思いやケースに柔軟、且つ適切に支援することで利用者一人一人が心身ともに安定し、地域の中で生きがいや目標を持って通所に繋がっている。

今後も関係機関と協力する中、利用者一人一人の個別支援を強化し、日中支援がより良いものとなるようまた希望者には就労を目標に更なる体制強化と安定した施設運営を図りたい。

### 1) 施設財政

今年度においては利用者の通所率が昨年と比較すると更に向上し、その結果、支援費収入が2,327,494円の増収となった。事業活動収入においては引き続き常時120%以上125%以下の出勤率を目指し安定を図りたい。毎年課題となっていた支援費収入においては45,373,923円、（昨年43,046,429円、一昨年40,845,322円）を得ることが出来、着

実に増収となっている。しかし現状の定員で運営を行う場合今後これ以上の増収は見込めないため新たな課題として事業拡大等必要に応じ検討しなければならない。しかし結果的には近年支援費収入は増収しているものの繰越については減収傾向となっている。

支援員が1名減となり人件費を削減できたにもかかわらず減収傾向となっている要因として今年度は新規事業開拓のため施設整備等行ったことが影響している。次年度においても安定した利用率を目指し、引き続き必要な改善を行いながら将来的な財源確保に向け日頃より様々な節約対策を行いたい。

今年度の人件費支出についてはこれまで増加傾向にあったが昨年度と比較すると415,056円の減となった。主な理由は年度途中で1名退職したことによるが現状の職員に対する定期昇給分等保障することにより大幅な影響はなく、次年度からは一昨年同様の支出が毎年加算される見込みである。利用者支援や作業内容の向上を目指すため、職員の増員は将来的に必要であるが現状支障が起こらないよう体制を確保し引き続き現行体制で活動を行う。

会計上においては全体収入の69.9%（昨年73.6%）を人件費が占めることとなり経営上余裕のない状況が続く。今後更に支援費収入を上げる工夫を行い、将来的には定員拡大を行い安定した経営が図れるよう検討しなければならない。事業費については2,994,896円となり例年より支出は多いものの事業拡大による備品整備等行ったため想定範囲内であり、今後大幅な増減はないと思われる。また事務費においては今年度8,478,926円となり昨年度の6,195,923円と比較し更に増額になっている。引き続き必要経費を確保するとともに節約を心掛け必要に応じ授産機器の整備、及び施設内の環境整備を行っていききたい。

今後も利用者に対する専門的な支援内容を更に向上させ、利用契約者数を常時40名以上、月平均利用23名～25名を目指し地域の限られた資源である精神障害者施設として積極的な受け入れをはかり、同時に運営の安定を図りたい。

科目	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費支出	27,644,407円	31,897,385円	33,629,396円	33,214,340円
事務費支出	5,085,634円	5,182,960円	6,195,023円	8,478,926円
事業費支出	2,578,675円	2,611,443円	2,395,850円	2,994,896円
支払利息支出	0円	0円	0円	25,266円
その他の支出	410,143円	578,295円	688,397円	642,513円
事業活動収入計	43,016,522円	42,643,505円	45,690,789円	47,471,123円
事業活動資金収支差額	7,297,663円	2,373,422円	2,782,123円	2,115,182円

## 2) 事業所整備

新たな仕事の創出、さらには利用者の工賃及び就労保障、また地域のニーズに根差すことを目的に敷地内の既存の作業室を菓子製造場所及び店舗としてリフォームし、20年にわたり取り組んでいるお菓子作りが今後本格的に行え、利用者が直接接客等行え、交流を深めることのできる店舗としての機能も備える菓子工房「IROTUYA」を、また環境整備を兼ね、余暇活動の一環としてこれまで取り組んできた園芸部が今後更に専門的に取り組み一定の収益を見込むため、ゆとりあ敷地内に、2.5間×5間(4.5m×9m)のビニールハウスの建築を行い花工房「DO 凜明」を開設した。

このことにより継続課題であるオリジナル商品の開発による販売促進に努め、社会情勢に左右されることなく独自の展開において収益を確保し、低工賃の脱却を目指し利用者の意欲向上と経済自立に向け安定を図るとともに地域就労に向け積極的な支援を行いたい。

また、既存のゆとりあのWEBSITEをリニューアルし広く周知に努めた。その他SNSの発信やチラシ、オリジナル菓子製造のパッケージのリニューアルの他、外部コンサルタントの指導を積極的に入れ引き続き専門性とクオリティの向上を目指した。その結果活動の幅も広がり利用者の大きな励みとなっている。今後、敷地内において引き続き利用者が安心安全の中、様々な可能性に挑戦すべく必要に応じた環境整備を行い工賃向上を目指したい。

## 3) 利用状況

今年度も利用希望者の受け入れを随時行ってきた。今年度はコロナ感染予防のため自粛していた期間があったが5名の見学者があり、4名の方が実習され4名が入所となった。前年度から検討中の方など全体では8名入所され、5名の方が退所された。令和4年3月末時点で契約者48名(男性25名、女性23名)となっている。

今年度は援護寮での生活訓練を行いながら日中活動先としての利用が1名、他の地域から転居してこられた方が1名、他施設との併用利用が1名、在宅の方が1名となった。

在宅からの方については就労経験があり、将来はA型事業所利用を踏まえた入所となっている。また、援護寮からの入所の方は援護寮での生活訓練を主とし、その一環としてB型事業所を週一回の利用から開始し生活リズムや服薬、また社会の中で課題とされるコミュニケーション能力に対する個々の悩みや相談などを確認し、将来的にはB型事業所の利用日数を徐々に増やし援護寮を退所し地域の中で暮らせるよう援護寮と連携しながら日中支援を行っている。

長期利用の方の中には高齢の方もおられ、生活リズムの維持を中心とした支援となっている。送迎利用についても、利用者間の個人情報に配慮し自宅前まで送迎が必要な方

については順番や配車を調整し対応してきた。

令和4年1月から3月においてはコロナ感染を心配し、通所を自粛される方や風邪などで体調を崩す方が数名おられ通所率が低下することとなった。その一方で通所日が祝日などにあたる場合は振替通所を希望される利用者の方もおられ、関係機関に連絡調整し柔軟に通所利用していただいた。

図1) 一日平均 (人)

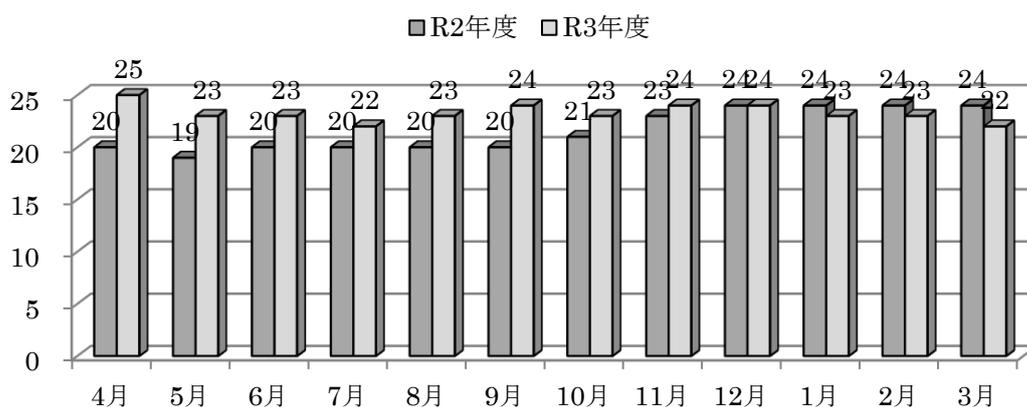


図1) 1月から3月はコロナ予防のため通所を自粛し休まれる方が多くなった。利用頻度は本人が医療と相談し病状や体調面を考慮した上で決めておられるため、生活リズムや体調の安定を優先した利用となっている。そのため週1回の方から週5回の方まで様々である。

図2) 利用目的別契約者数 (人)

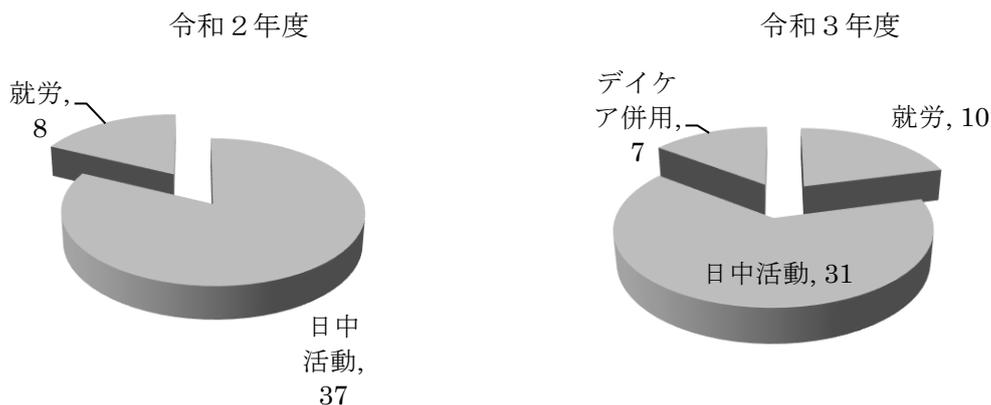


図2) では今年度入所者の中には就労経験者で具体的に就労を意図した目的で入所された。

図 3) 年代別男女 (人)

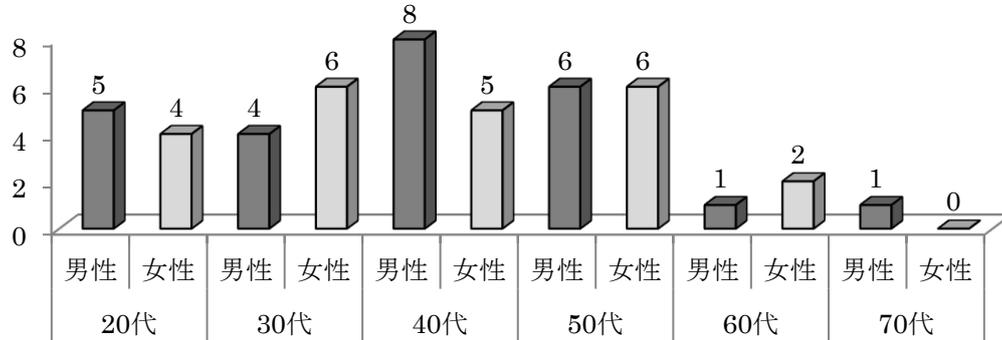


図 3) では年齢幅は 21 歳～70 歳で平均年齢は 43 歳となった。

図 4) 地域別利用者数 (人)

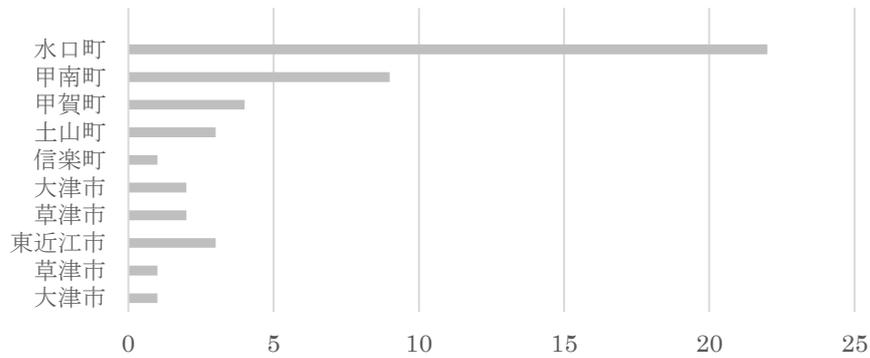


図 4) では水口にグループホームが 4 カ所あることや援護寮 (生活訓練施設 2 年間) 退所後そのまま水口に住む方が多いため。

図 5) 住環境 (人)

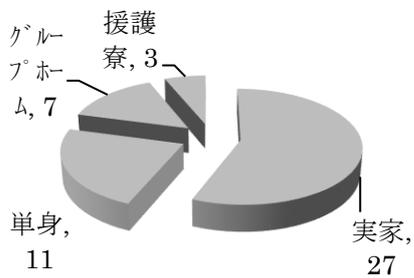


図 6) 送迎利用者 (人)

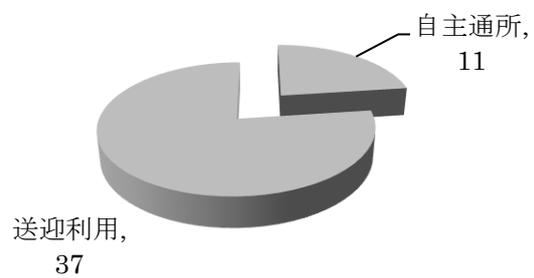


図 5) では今年度の入所者は、援護寮 1 名、実家 1 名、単身 2 名であった。

図 6) では全体で 77%の方が利用され昨年 (75%) に比べ増加している。

入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	1	0	0	3	1	0	1	0	1	0	0
退所	2	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0

図 7) 入所前状況 (人)

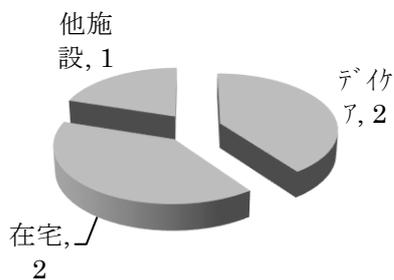


図 8) 障害程度区分 (人)

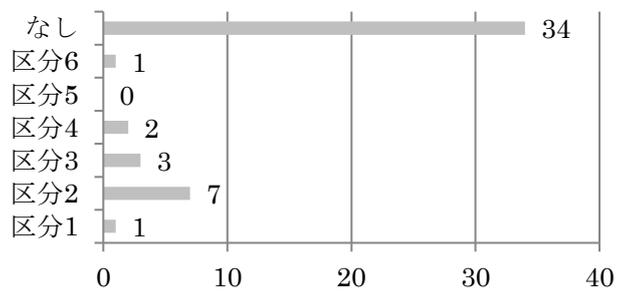


図 7) では今年度は生活リズムや体調を整えること、日中活動のため、就労のためを目的とする方であった。

図 8) では就労継続支援B型事業所のみでの利用で申請されている場合、区分判定はない。グループホームや宿泊型自立訓練事業所、訪問看護など生活面のサービスを利用する場合は区分が出る。

図 9) 見学者紹介機関 (人)

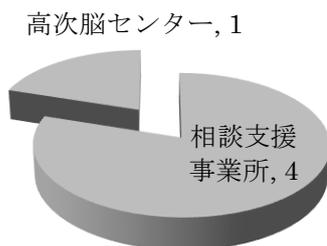


図 10) 診断名別状況 (人)

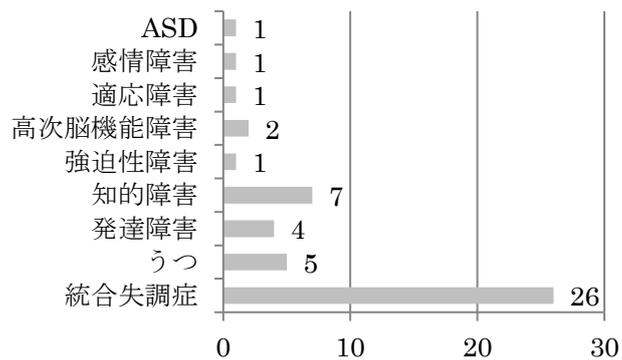


図 9) では見学者 5 名中 4 名が実習を行い、4 名が入所へとつながった。

図 10) では障害が重複されている方や二次的な診断はついていないが複雑化している傾向がみられる。それに伴い、他の利用者との接し方などの対人面や集団活動への苦手意識などを有している方への配慮が必要となっている。今後も相談支援機関を中心に病院や他の支援機関と連携を密に行い精神疾患の安定を図っていくことが重要である。

#### 4) 生産活動

今年度の生産活動収入額は 6,762,016 円となった。特に目立つのは菓子販売で、昨年度と比べ 41 万円の増収となった。販売先へのゆとりあの活動周知や菓子カタログの刷新、菓子の新商品開発に力を入れたことにより地域の方々への理解がより一層深まり増収に繋がった。また、リアル忍者館、鹿深いちご園、かもしか荘での手裏剣クッキーの販売が加わり観光客の注目を集め、ゆとりあの菓子を代表する商品となった。菓子製造における利用者の関りについては工程の細分化や利用者の方々の得意な事・ストレンクスを活かすことで関りを増やすことが出来たが、注文が重なることで菓子製造が職員中心となってしまったといった課題が浮き彫りとなっている。

花工房ドリーミンを来年オープンのため、準備期間として令和 3 年 10 月にスタートを切ることとなった。種まきから育苗までを職員と利用者の方々で取り組み、土に触れ花苗を育てることで心穏やかに取り組み、内職作業や菓子製造だけではなく簡単に取り組める作業としても配慮している。

年度途中には内職作業の見直しを行った。来年度については菓子工房イロツヤ、花工房ドリーミンのオープンを予定しており職員体制の強化を図るため古紙回収と村田精器様の内職作業の中止を行い、その中でも古紙回収は少しずつ回収量が増えていたが、古紙単価が軒並み値下がり（段ボール 3 円/kg 雑誌 1 円/kg 新聞 2 円/kg）減収となったことも中止の要因である。

最後に、上記の生産活動収入額に対して支出額は 6,950,295 となり▲188,279 円の決済となった。今年度は利用者の工賃アップや契約者数の増加に伴い、工賃支払い総額 3,619,383 円（昨年度 3,445,749 円）や工賃支払対象延べ人数 514 名（昨年度 484 名）という結果から理由が挙げられる。来年度については菓子工房イロツヤ、花工房ドリーミンを地域の皆様に取り組みを知って頂くとともに生産活動収入額の増収に努めていく。

精神障害者は疾患と障がいの両面を持っておられるため、今後も作業療法の要素と体調面の維持を組み合わせながら継続した病状の安定が図れるよう、生産活動の向上に努めていかなければならない。

	29 年度実績	30 年度実績	1 年度実績	2 年度実績	3 年度実績	4 年度計画
工賃支払総額	3,167,962	3,301,695	2,968,969	3,445,749	3,619,383	4,200,000
工賃支払対象延べ人数	373	396	397	484	514	528
平均工賃月額	8,493	8,338	7,479	7,119	7,042	7,954

図 11) 項目別収入到達額 (単位：万円)

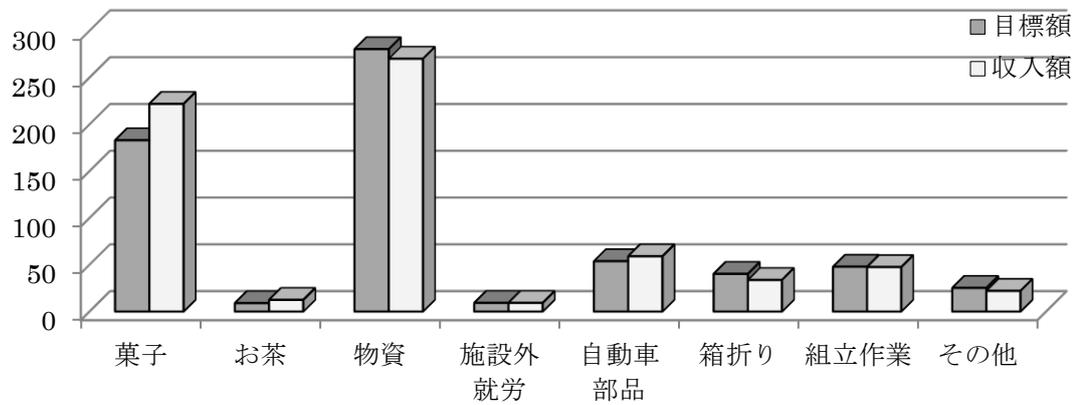


図 12) 項目別利益表

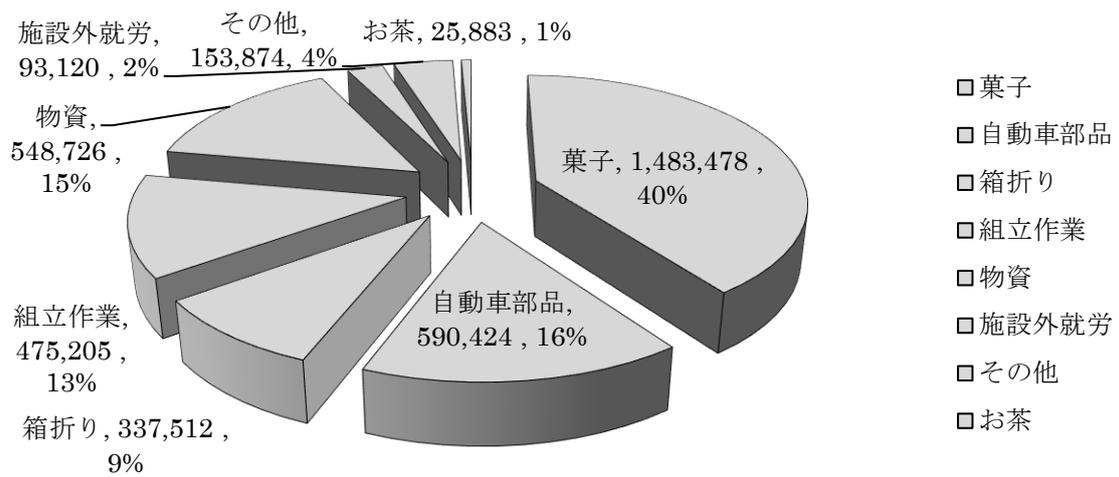


図 13) 月平均工賃額 (単位：円)

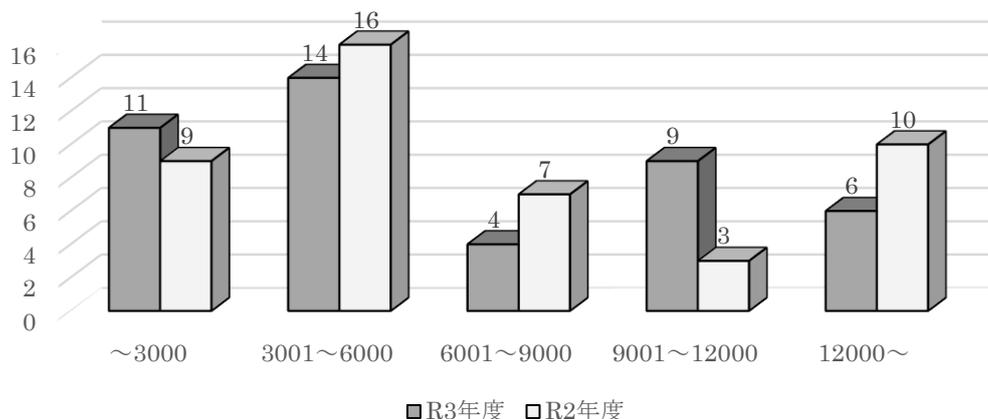


図 13) 利用日数では在籍のみ 3 名、週一 7 名、週二 7 名、週三 12 名、週四 6 名、週五 13 名となっている。

令和 3 年度 利用者工賃規定

工賃	入所時は時給 150 円とし、入所から 3 年を経過したその月に時給 170 円とします。※今年度より 5 年ごとに工賃見直しを行います。
支給日	工賃の締め切りは月の初日から月末とし、毎月 20 日に支給します。
給食代	昼食を利用した人は、1 食 250 円×回数を工賃から引きます。 工賃から引けない場合は請求します。
賞与	賞与は年 2 回、8 月と 12 月に支給します。ただし、基準日（8/1, 12/1）以前 6 ヶ月の通所率が、25%未満は支給の 3 割、25%以上 50%未満は支給の 5 割、50%以上は満額支給となります。 ※12~5 月の 6 ヶ月 6~11 月の 6 ヶ月
期末手当	期末手当はその年度の利益に応じて 3 月に支給します。 ただし、基準日（3/1）以前 12 か月の通所率が上記の%に準じて支給します。※3~翌 2 月の 12 か月

5) 社会参加・地域交流事業

今年度も継続して施設外就労の清掃作業、利用者の方々と共に物資仕分け・配達や花苗・菓子納品に取り組んだ。甲賀圏域を中心に各関係機関や企業などに物資販売の広告を配布し取り組みの趣旨を利用者の方々と共に伝えることが出来た。このことにより地域の皆様にゆとりあの取り組みや精神疾患を持っておられる方々の理解を深められる機会となった。その中でも今年度初めて取り組んだのが鹿深イチゴ園と青少年研修センターで行われたマルシェの参加である。利用者の方々と一緒に花苗やお菓子の販売に取

り組み、購入につながった時には共に喜びを分かち合い遣り甲斐にもつなげることが出来た。今後も継続してマルシェ参加に努めていきたい。

四季折々の場所へ出かけて季節感を味わうことや食事や公共のマナーを体験し生活意欲につながるよう行事や余暇支援を行っていたがコロナ禍のため実行できなかった。だが、密にならないようソーシャルディスタンスを保ち感染予防に努めながらゆとりあ内での楽しみランチやネイルサロンを取り入れることで利用者の方々の楽しみを維持しつつ参加する喜びを盛り上げることに努めた。ネイルサロンではネイリストの方に定期的に来所していただき、お互いに会話を楽しみコミュニケーションを図れる場として取り組んだ。普段よりおしゃれに、また心癒される機会を持つことで日常生活をより豊かに感じてもらえるよう取り組めた行事である。

#### 6) 関係機関との連携

引き続き精神疾患を主とした利用者の方々を受け入れるため、相談支援事業所を中心とした地域連携を基に医療や他の支援センターと連携しスムーズな受け入れにつながられるようケースの情報共有を行った。在籍期間が長い利用者の方の年齢が上がってきており、親が在宅での生活ができなくなり高齢者施設に入所するケースや亡くなることもあり、突然の单身生活を余儀なくされる事例も発生しており、支援者間との情報共有が重要となってきた。水口病院に付随する援護寮（入所生活訓練事業所）があるため、医師の診断が必要ではあるが受け入れが出来る事例もある。

住み慣れた地域での生活を継続するため、集団が苦手な方向けの单身型グループホームもあり、利用者の方が安心して生活を送れる環境や一般就労後も他のサービスを継続して受けられるよう関係機関と本人の精神疾患の特性などの情報共有を行いライフステージが変わっても継続的な支援ができるよう努めてきた。

精神疾患の症状が日々変化することから、日中活動の様子を医療やグループホームへ連絡し早めの対応対策に努め症状の悪化を少しでも緩やかにするよう努めてきた。

#### 7) 職員状況

現在の職員数は管理者（やまなみ工房と兼務）1名、サービス管理責任者1名、事務1名、生活支援員（1名は調理員兼務）3名、職業指導員2名の8名体制となった。（令和3年9月1名退職となる）非常勤スタッフ2名については、10：00から隔日9：30からの出勤時間変更を行い体制強化に努めた。年度途中で1名減の体制となるも、今まで以上に職員間でしっかりと声掛け、管理者部会、職員会議で意見を出し合う等の連携をより一層深めた。そして、来年度オープンを予定している菓子工房イロツヤと花工房 Do 凜明～Dreamin' の準備期間として他事業所への見学、勉強会に取り組んだ。

その中でも、ゆとりあのお菓子製造では販路拡大、販売方法やパッケージデザインなどに力を入れ、ゆとりあのお菓子を長年親しんで下さるお客様の気持ちに寄り添い、菓

子売り上げ向上に努め利用者の方々の工賃アップにより一層力を入れてきた。また、前年度以上に試作を重ね新しいゆとりあを代表するお菓子（マーブルベイク 手裏剣クッキー）が誕生した。売り上げについては前年度のプラス 50 万円という結果を出すことが出来た。

2 月 10 日にはやまなみ工房合同での虐待研修、3 月 26 日にゆとりあ施設内で福祉制度・法律についての研修を行った。利用者の方々が安心、安全にサービスが受けられるよう、スタッフ全員が利用者の方々との関わりを振り返る良い機会となる。虐待となる最初の入り口、職員間の連携不足や相談出来ない環境が一つの要因であるため施設内外で虐待が起こらないよう施設全体で要因解決に努めていきたい。

制度については必要とされる知識や情報等専門性が求められる。8050 問題が深刻化している現在において、ゆとりあに通所されている利用者の方々の中にも直面しておられる方が見受けられる。家族の方からの聞き取りから障害年金受給につながるケースもあった。専門知識習得のための研修を持ち、職員ひとり一人がスキルアップ出来るよう努めていきたい。そして職員の特性が発揮できるよう役割や意識を持ちより良い施設づくりを行っていく。

## 8) 今後の課題と事業展開

今後も主たる利用者を精神障害者とし、知的障害者や発達障害者の受け入れも積極的に行う。また希望者が今後も増となる場合は定員を 20 名から 40 名に変更し地域ニーズに対応したい。

更に活動場所については甲賀市の所有物件である元シルバー人材センターの作業場跡地を有効活用し、今後も地域の中で利用者が活躍できるよう就労に向けた訓練及び社会復帰に向けた様々な取組と魅力ある実践の充実向上を図り、利用者一人ひとりが「ゆとりあ」を利用することで、日々安定した状況で豊かに健康で過ごせる事を目指したい。

引き続き併設するやまなみ工房の利用者を対象に一部希望者の併用利用を行い、法人内施設が更に協力を深め一人一人の支援を充実させたい。